

読売新聞 平成 12 年（2000 年）12 月 24 日朝刊より抜粋

大産大付 V2

大産大付 64 $\left(\begin{array}{l} 21-0 \\ 21-0 \\ 7-0 \\ 15-0 \end{array} \right)$ 0 法政二

アメリカン・フットボール・全国高校選手権決勝「クリスマスボウル」（23 日・大阪長居球技場）——関西代表の大産大付（大阪）が 64-0 で関東代表の法政二（神奈川）を破り、2 年連続 3 度目の高校王者に輝いた。

開始直後に 3 年生の 80 ヤードキックオフリターン TD で専制。その後も着実に加点、守備陣が相手の反撃を完封し、昨年、同高が記録した決勝の最多得点差（58 点差）を更新した。

個人賞は最優秀ボックス賞（三隅杯）、最優秀ライン賞（安藤杯）（ともに大産大付）、敢闘賞（法政二）が選ばれた。

圧倒的な攻撃力

残り 2 秒で 9 本目の TD を挙げた後、大産大付は TFP のキックを狙わず、QB が自らエンドゾーンへ飛び込んで 2 点を追加した。圧倒的な強さを象徴するシーンだった。

昨年は超高校級と言われた QB がいたが、今年は後任に WR をコンバートするなど苦しい布陣。それでも、入学以来、地道な筋力トレーニングで平均体重を 20 キロ増やした攻撃ライ



ンの破壊力が、この日もランで 377 ヤードを進めた。

「ラインの気持ちにこたえたかった」というボックス陣。そんな気持ちが、偉大な先輩らがつくった決勝の最多得点差更新につながった。

機敏、聴覚障害関係なし

○…聴覚障害を持ちながら昨年からはレギュラーとして活躍してきた大産大付の DB（山本隆幸）が、完封勝ちに貢献した。第 4 クォーターに入り、相手のパスをもう少しで奪取しそうな場面を見せるなど、ハンデを感じさせない動きで法政二の反撃を断った。来春には大学への進学が内定、アメフトを続けることにしており、「1 年からチームの役に立ちたい」と意欲を見せた。